「種をまく人」　ポール＝フライシュマン　片岡しのぶ訳　の構造読み

学校図書　中学校3年教科書教材

この作品は、「キムの話」「アナの話」「ウェンデルの話」とそれぞれを語り手として、別々に語られている短編が並ぶ形となっている教材である。

それぞれの話は独立して別の話として存在しているように語られてもいるのだが、教科書の掲載部分で、実は三人の気持ちが通じ合っていく場面である。（原作では、このあともっと多くの人々を巻き込んでいくのだが。）

キムの行動を、最初怪しがっていたアナがその行動の真意を理解していく。そして直接的なふれ合いはないものの、キムの行動を応援するようになり、ウェンデルに手伝いを依頼する。ウェンデルとキムは出会うが、キムは無言のまま。

しかし、実は三人の心が通じ合っているのである。それが読み取れる箇所をクライマックスとしたいと考える。

「構造読み」

○冒頭　　P、１７２　上段L、２

　　　　うちの小さな祭壇に父さんの写真が飾ってあります。

○発端　　P、１７８　上段L、３

　　　　この春、まどの外を見ると～

○山場の始まり　P,１８２　下段L,９

　　　　ふと、人の気配がして、振り向いてみると～

★クライマックス　P、１８３　上段　L。１０

　　　　夕方、また見に行ってみると、マメはしゃんとなり、他の三本の根もとにも、土がこんもり盛り上げてありました。

○結末　P,１８４　上段　L、１０

　　　　～髪の黒いあの女の子に、それを教わったんですよ。

○おわり　P、１８４　下段　L,9

　　　　～週明けの月曜日、学校をのシャベルを借りて帰りました。

※クライマックスについて

　　　　夕方、また見に行ってみると、マメはしゃんとなり、他の三本の根もとにも、土がこんもり盛り上げてありました。

四つの芽の根もとに土をかき寄せ盛り上げ、水をやっていたところに、キムが現れる。ウェンデルと出会ったキムは「怖がっている様子でした。」「私は、にっこり笑いかけ、水をやっていたのだよ、と身振りで示しました。」（ウェンデルはキムに言葉は通じないと感じたのだろう。）「女の子の目はさらに大きくなりました。私はゆっくり立ち上がり、後ろ向きに離れながら、また笑いかけました。女の子は黙って見送っていました。どっちも無言でした。」

ここでは、私の真意が通じたのかどうかもわからない。しかし、クライマックスのところでキムにウェンデルのしたことが通じあったことがはっきりする。

他の三本の根もとに土を盛り上げたのは（アナは足をくじいて行けない）キムである。つまり、ウェンデルがマメのために土を盛り上げ、水をやったことを理解し、それをまねたのである。

そして、キムはウェンデルを通じてアナとも通じ合ったことになるのである。